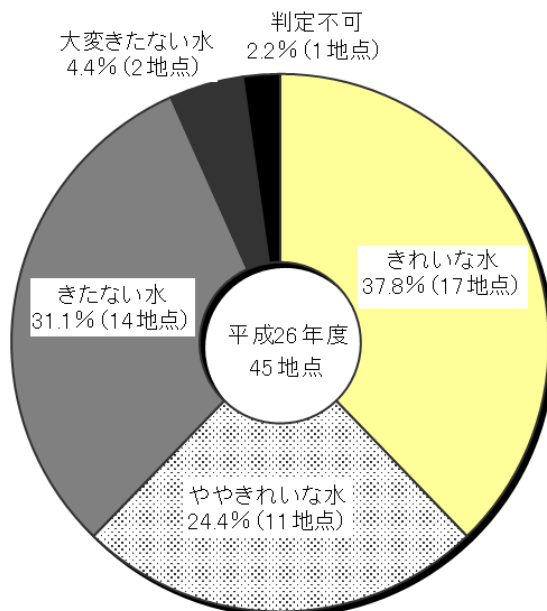


## 2. 調査結果

### (1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図-1に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は17地点(37.8%)、“ややきれいな水”と判定された地点は11地点(24.4%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は14地点(31.1%)、“大変きたない水”と判定されたのは2地点(4.4%)であった。



<図-1> 水質階級別調査地点数の割合

### (2) 前年度に対する水質階級の比較

平成26年度の調査地点45地点のうち33地点が平成25年度と同じ地点での調査であった。これらの33地点の水質階級を比較すると、同じであったところが20地点、よくなったところが9地点、悪くなったところが4地点であった。(表-2)

<表-2> 前年度に対する水質階級の比較(前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度よりよくなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	9	20	4	33
割合 (%)	27.3	60.6	12.1	100

### (3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表-3、調査地点における水質階級を図-2に示す。

#### (4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表-4のとおりである。

平成26年度に最も多くの地点で出現した指標生物は、シマイシビルであった。

<表-4> 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物		指標生物 (○+●)		出現割合 (%)	優占種 (●)	
			頻度 (回)	割合 (%)		頻度 (回)	割合 (%)
I きれいな水	1	アミカ類	1	0.4	28.4	1	1.1
	2	ナミウズムシ	10	4.0		2	2.2
	3	カワゲラ類	10	4.0		2	2.2
	4	サワガニ	5	2.0		2	2.2
	5	ナガレトビケラ類	7	2.8		2	2.2
	6	ヒラタカゲロウ類	18	7.2		12	13.3
	7	ブユ類	4	1.6		1	1.1
	8	ヘビトンボ	4	1.6		1	1.1
	9	ヤマトビケラ類	7	2.8		2	2.2
	10	ヨコエビ類	5	2.0		2	2.2
II ややきれいな水	11	オオシマトビケラ	9	3.6	30.4	4	4.4
	12	カワニナ類	19	7.6		10	11.1
	13	ゲンジボタル	1	0.4		0	0.0
	14	コオニヤンマ	6	2.4		1	1.1
	15	コガタシマトビケラ類	10	4.0		3	3.3
	16	ヒラタドロムシ類	20	8.0		8	8.9
	17	イシマキガイ ※	2	0.8		0	0.0
	18	ヤマトシジミ ※	9	3.6		3	3.3
III きたない水	19	タニシ類	17	6.8	28.4	7	7.8
	20	シマイシビル	28	11.2		12	13.3
	21	ミズカマキリ	9	3.6		2	2.2
	22	ミズムシ	11	4.4		6	6.7
	23	イソコツブムシ類 ※	1	0.4		0	0.0
	24	ニホンドロソコエビ ※	5	2.0		2	2.2
IV きとたない水	25	アメリカザリガニ	9	3.6	12.8	0	0.0
	26	エラミミズ	4	1.6		0	0.0
	27	サカマキガイ	5	2.0		1	1.1
	28	ユスリカ類	10	4.0		4	4.4
	29	チョウバエ類	4	1.6		0	0.0
合計			250	100	100	90	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が100%にならないことがある。